

CREO

株式会社クレオ

CREO CO.,LTD.

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目19番22号
TEL.03-3445-3500(大代表)
FAX.03-3445-3505

<http://www.creo.co.jp>



ホームページ上でも
IR情報を公開しています。

株主メモ

決算期	3月31日
利益配当金受領株主確定日	3月31日
	中間配当金(毎年9月末日) なお中間配当を実施するときの 株主確定日は9月30日
定時株主総会 基準日(定時株主総会関係)	6月 3月31日
名義書換代理人事務取扱場所	三菱信託銀行株式会社 東京都千代田区永田町2丁目11番1号
(連絡先)	〒171-8508 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5391-1900(代表)
事務取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

CREO
株式会社クレオ

CREO Business Manager Series

PC Package

System Integration

第30期 中間事業報告書

平成14年4月1日～平成14年9月30日

『クレオ ニュース配信サービスのご案内』

この度、弊社では投資家の皆様に向けてより迅速に情報をお送りするため、メール配信サービスを開始します。メール配信サービスでは、IRニュースを中心としたクレオのニュースをいち早くe-mailでお届けいたします。メール配信ご希望の方は、クレオのホームページよりご登録くださいませ。

TOPICS — 製品・サービスの拡充

▶「FACE conference」

パソコン上で、リアルタイムの対面コミュニケーションを実現。手軽に導入できる本格的なインターネット会議システムを提案しています。

韓国HanbitSoft社とのアライアンスによる新事業として、同社が開発したインターネット会議システム「FACE Conference™」シリーズを8月から販売開始しました。最新の画像圧縮技術「MPEG-4」を用いた画像・音声のリアルタイム通信により、パソコン上での対面コミュニケーションを実現した同製品は、会議に伴う移動時間や経費の削減、オフィス内ミーティングの効率化などに有効です。当社は販売にあたり、日本市場に合わせた機能と普及価格を設定することで高い市場競争力を確保しました。現在、ブロードバンド時代の新たなソリューションとして法人市場での提案活動を進めています。専用サイトアドレス <http://www.eface.jp>



▶「CBMS with Progress @ site」

人材マネジメントの機能を加え、強みを増したCBMSの新製品！人事部門の課題解決をトータルに支援するシステムとして拡販を図っています。

5月13日、当社の人事管理・給与計算システム「CBMS人事給与」と株式会社サイエンティアのHRM統合支援システム「Progress@Site」を連携させた「CBMS with Progress@Site」を新発売し、企業や官公庁向けに拡販を図っています。同システムは、人事部門の業務効率化から人的資源の活用・開発までをトータルに支援する機能を備えており、また社内イントラネットのWebブラウザ上で稼働するため、操作性にも優れています。当社は同システムの提案を通じて、経営における間接コストの低減、実力主義人事制度への移行といった昨今の課題に対応していきます。



▶「筆まめver.13」・「筆まめBBサービス」

操作性を大幅に進化させた最新バージョンと新たなWebサービス。ブロードバンド時代に生きる「筆まめ」の可能性をさらに広げていきます。

はがき / 毛筆印刷ソフト「筆まめ」の最新バージョン「筆まめVer.13」およびデザイン・印刷の付帯ソフト6タイトル計8製品を、10月5日に一斉発売しました。「筆まめVer.13」では、初心者からベテランユーザーまでを対象として、高機能を維持しながら操作性を大幅に向上させました。Contact-XMLを採用することで他のソフトとのデータ連携・共有を可能としたほか、タブレットPC対応の手書き入力ツールなども提供しています。また、11月にはWeb上での新サービスとして「筆まめBBサービス」を開始しました。インターネットの常時接続環境で、季節ごとに旬のコンテンツを提供するとともに、携帯電話やPDAから住所録などの最新リソースをいつでも、どこでも利用できるようにすることで「筆まめ」の利便性をさらに高めています。



株主の皆様へ

新たな収益基盤の確立とコスト競争力向上に努めています。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当社の事業経営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第30期中間期の事業報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当中間期、情報サービス業界では慢性化した景気停滞を受けてIT関連投資が伸び悩み、受注競争はますます激化しました。そうしたなか、当社は当期から特定の業種・業務などに特化できるよう組織体制を変更し、一部企業や官公庁・自治体の情報システム革新ニーズに確実に応えるべく努めてまいりました。また前期に続き、部門間や他社との連携強化や、新たな収益モデルの確立に向けた研究開発にも注力しております。それらの一環として進めてきた他社とのアライアンスについては、「Face Conference™」シリーズの販売開始など、新たな事業展開へと結実しつつあります。一方、既存事業も、インターネットやモバイルなどのコア技術を活かしたSI事業などが堅実に進捗しています。

これらの結果、当中間期の連結業績については、売上高が前年同期比2億6百万円増の51億95百万円、営業利益が前年同期比50百万円増の2億30百万円となりました。しかしながら当期中間純利益については、債権貸倒れの発生に伴う特別損失を計上したことなどから、前年同期比8百万円減の33百万円となりました。

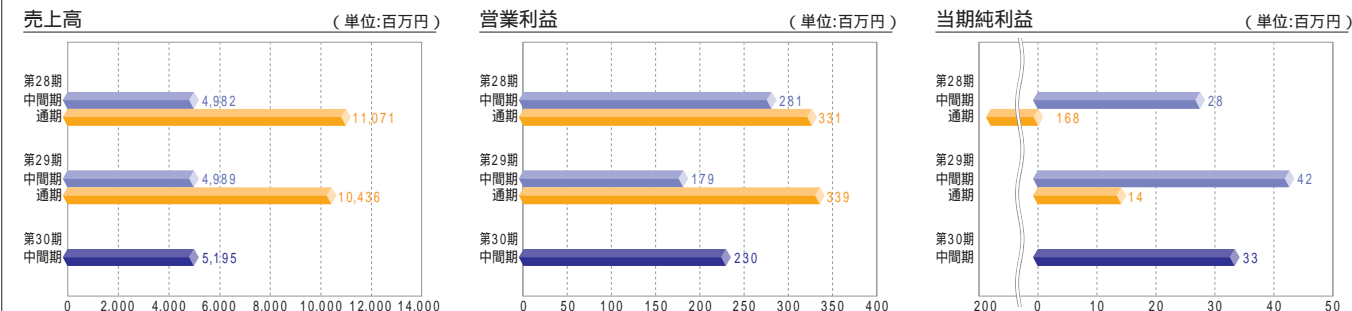
下期には、新たな収益基盤の確立に向けて、立ち上がりつつある新事業・サービスの育成を図ります。また、高い品質と信頼性を維持しつつ、コスト競争力の向上にも努めてまいります。皆様には、引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長 川畑種恭 (写真左)

代表取締役社長 大谷武彦 (写真右)

クレオ決算ハイライト



セグメント別の概況

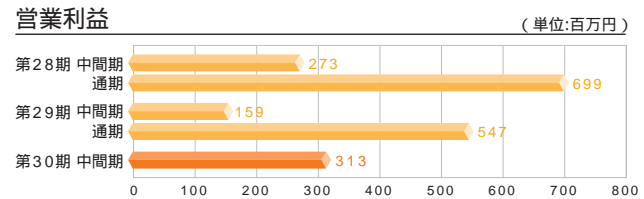
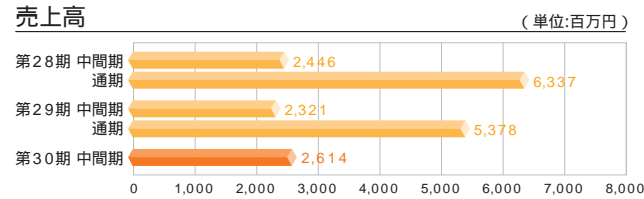
それぞれの事業で、新製品・新事業の育成に取り組んでいます。

■ システム開発事業 着実な収益向上とサービスの高付加価値化へ

「システム開発事業」においては、企業・官公庁の大規模プロジェクトを確保する一方、中規模プロジェクトについても採算性の厳しいプロジェクトはあったものの、インターネットやモバイルなどの技術を駆使した提案活動とシステム構築を着実に積み重ねました。それらの結果、当中間期においては、売上高は前年同期比2億92百万円増の26億14百万円、営業利益は前年同期比1億54百万円増の3億13百万円となりました。

下期以降については、SAP関連をはじめとする進行中の商談を確実に成約させるとともに、有力なパッケージなどを活用したトータルソリューションの提案、ターゲットを明確にした営業活動を通じた新規商談の獲得に努めます。あわせて原価率の低減、既存サービスの品質と業務効率向上も図ってまいります。

業績の推移



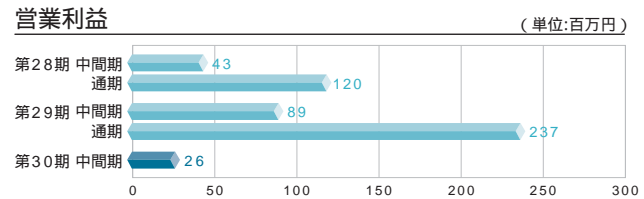
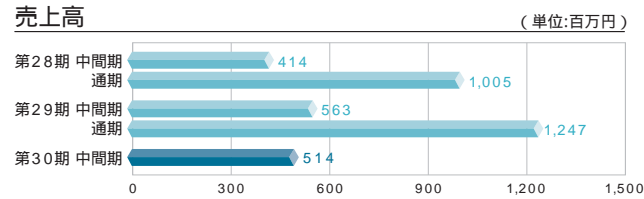
4事業とも、内部取引を含んでおります。

■ CBMS事業 サポートサービスの収益基盤確立をめざして

「CBMS事業」においては、前期から収益構造をサポートサービスへとシフトしたことにより、現有マーケットを基盤としたビジネス展開が拡大しています。しかしながら当中間期については、パッケージ本体が伸び悩んだことから売上高は前年同期比48百万円減の5億14百万円、また営業利益は、新製品開発に伴う費用などが影響して前年同期比62百万円減の26百万円となりました。

下期以降については、新たな収益モデルを確立すべく、サポートサービスの需要動向を見ながら要員計画の最適化を図ります。また、パッケージ本体についても個別のプロジェクトごとに品質と利益の追求を徹底するほか、市場ニーズに即した新製品の早期提供をめざして開発に取り組んでまいります。

業績の推移



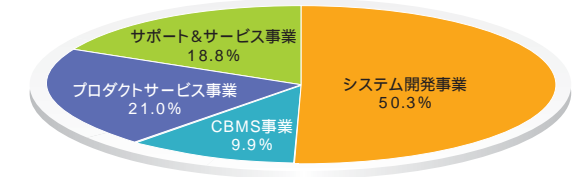
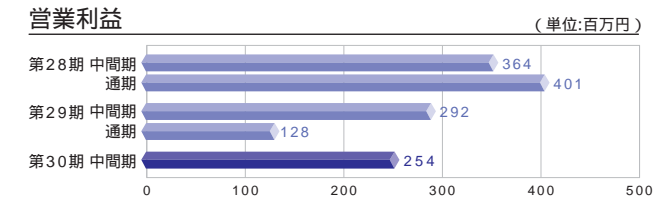
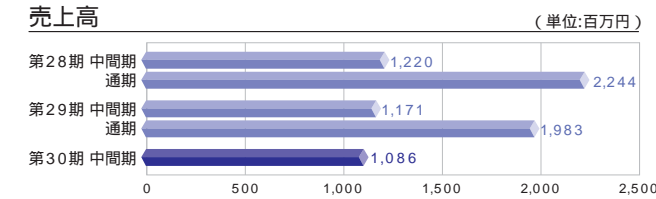
■ プロダクトサービス事業 新製品・サービスの積極的な育成へ

「プロダクトサービス事業」においては、毛筆印刷ソフト「筆まめ」を筆頭に厳しい市場環境における価格競争が続くなか、既存製品の着実な利益確保に努めるとともに、新たな収益基盤の確立に向けて複数の新製品を市場に投入しました。さらに「筆まめBBサービス」など、インターネットをベースとする新たな製品・サービスには今後も積極的な技術投資を続けていきます。これらのほか、10月に発売した「筆まめVer.13」も期首の見込みを上回る好調な滑り出しを見せ、今後の拡販が期待できます。しかしながら、当中間期については個人消費の低迷と価格競争の影響を受け、売上高は前年同期比84百万円減の10億86百万円、営業利益は前年同期比38百万円減の2億54百万円となりました。

下期以降は、当中間期に投入した製品・サービスを軌道に乗せ、あわせてブロードバンドなどに対応したインターネットサービスの提供に注力してまいります。

新製品・サービスについては巻頭の「TOPICS」をご参照ください。

業績の推移



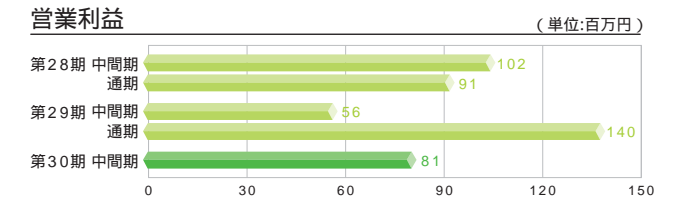
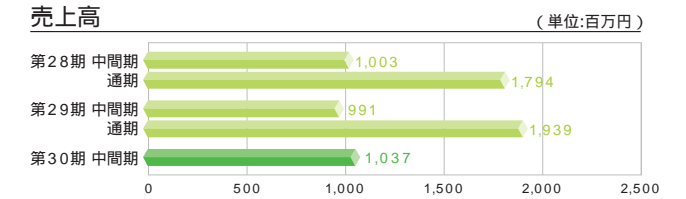
セグメント別売上高構成比率

■ サポート&サービス事業 新規顧客開拓と契約継続の安定化を

「サポート&サービス事業」は、顧客からの受注単価が減少しましたが、新規顧客開拓に注力した結果、当中間期の売上高は、前年同期比42百万円増の9億75百万円、営業利益は前年同期比24百万円増の81百万円となり、わずかながら増加しました。

下期以降は、引き続ききめ細かな営業活動により新規顧客の開拓を推進するとともに、日常的な提案活動を通じて既存顧客からの受注を維持拡大していきます。また、ヘルプデスク関連サービスにおいては、クリエイトラボとの連携をいっそう強化し、市場競争力および顧客満足度の高いサービスの提供に努めてまいります。

業績の推移



中間連結決算のご報告(要約)

中間連結貸借対照表 (単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	期別	当中間期 (第30期) 平成14年9月30日現在	前中間期 (第29期) 平成13年9月30日現在	前期末 (第29期) 平成14年3月31日現在
資産の部				
流動資産		5,778,165	6,289,610	5,575,450
固定資産		2,419,280	2,085,798	2,006,980
有形固定資産		446,742	447,736	416,054
無形固定資産		661,611	425,081	416,146
投資その他の資産		1,310,926	1,212,980	1,174,779
資産合計		8,197,446	8,375,408	7,582,431
負債の部				
流動負債		2,258,436	2,511,500	1,766,533
固定負債		222,897	268,193	211,768
負債合計		2,481,333	2,779,693	1,978,301
少数株主持分				
少数株主持分		101,264	76,339	87,584
資本の部				
資本金		2,330,650	2,263,450	2,263,450
資本剰余金		3,035,350	2,968,450	2,968,450
利益剰余金		319,308	316,261	313,757
その他の有価証券評価差額金		47,117	9,155	7,938
自己株式		23,342	19,629	21,172
資本合計		5,614,848	5,519,376	5,516,545
負債、少数株主持分及び資本合計		8,197,446	8,375,408	7,582,431

中間連結損益計算書 (単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	期別	当中間期 (第30期) 平成14年4月1日から平成14年9月30日まで	前中間期 (第29期) 平成13年4月1日から平成13年9月30日まで	前期末 (第29期) 平成13年4月1日から平成14年3月31日まで
売上高		5,195,873	4,989,082	10,436,251
営業利益		230,036	179,177	339,157
経常利益		230,329	154,979	323,561
特別利益		-	8,411	34,465
特別損失		107,287	39,124	175,091
税金等調整前中間(当期)純利益		123,042	124,266	182,935
少数株主利益		14,805	2,599	13,844
中間(当期)純利益		33,931	42,261	14,969

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	期別	当中間期 (第30期) 平成14年4月1日から平成14年9月30日まで	前中間期 (第29期) 平成13年4月1日から平成13年9月30日まで	前期末 (第29期) 平成13年4月1日から平成14年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		396,970	258,638	352,549
投資活動によるキャッシュ・フロー		572,460	55,305	306,517
財務活動によるキャッシュ・フロー		65,990	114,263	420,513
現金及び現金同等物等の増加額(減少額)		903,441	89,069	374,480
現金及び現金同等物等の期首残高		1,426,082	1,800,563	1,800,563
現金及び現金同等物等の期末残高		522,641	1,889,633	1,426,082

中間単独決算のご報告(要約)

中間貸借対照表 (単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	期別	当中間期 (第30期) 平成14年9月30日現在	前中間期 (第29期) 平成13年9月30日現在	前期末 (第29期) 平成14年3月31日現在
資産の部				
流動資産		5,237,365	5,805,979	5,040,383
固定資産		2,370,081	2,044,711	1,962,822
有形固定資産		436,772	435,051	404,816
無形固定資産		656,987	419,373	410,980
投資その他の資産		1,276,321	1,190,286	1,147,026
資産合計		7,607,446	7,850,691	7,003,206
負債の部				
流動負債		1,952,487	2,263,994	1,437,575
固定負債		149,171	130,490	141,577
負債合計		2,101,659	2,394,484	1,579,153
資本の部				
資本金		2,330,650	2,263,450	2,263,450
資本剰余金		3,035,350	2,968,450	2,968,450
利益剰余金		210,247	253,091	221,264
利益準備金		59,600	59,600	59,600
任意積立金		118,337	119,156	119,157
中間(当期)未処分利益		32,310	74,334	42,507
その他有価証券評価差額金		47,117	9,155	7,938
自己株式		23,342	19,629	21,172
資本合計		5,505,787	5,456,206	5,424,053
負債・資本合計		7,607,446	7,850,691	7,003,206

中間損益計算書 (単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	期別	当中間期 (第30期) 平成14年4月1日から平成14年9月30日まで	前中間期 (第29期) 平成13年4月1日から平成13年9月30日まで	前期末 (第29期) 平成13年4月1日から平成14年3月31日まで
売上高		4,443,503	4,384,834	9,172,453
営業利益		167,088	161,740	272,761
経常利益		170,227	165,513	286,318
特別利益		-	8,411	35,628
特別損失		105,087	48,339	172,102
中間(当期)純損益		17,363	55,118	23,291
前期繰越利益		14,946	19,216	19,216
当期末処分利益		32,310	74,334	42,507

会社概要

商号 株式会社クレオ
 本社所在地 東京都港区高輪3丁目19番22号
 設立 昭和49年3月
 従業員 516名
 事業所 東京、横浜、大阪、名古屋

役員

代表取締役会長 川畑種恭
 代表取締役社長 大谷武彦
 専務取締役 村田晋
 専務取締役 岩淵和夫
 取締役 木庭清
 常務執行役員 湯沢孝之
 執行役員 高橋武
 執行役員 大森俊樹
 執行役員 野田口一憲
 執行役員 大屋守弘
 常勤監査役 荒井道夫
 監査役 岩淵正紀
 監査役 谷舘龍二

注)監査役 岩淵正紀及び監査役 谷舘龍二は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条1項に定める社外監査役であります。

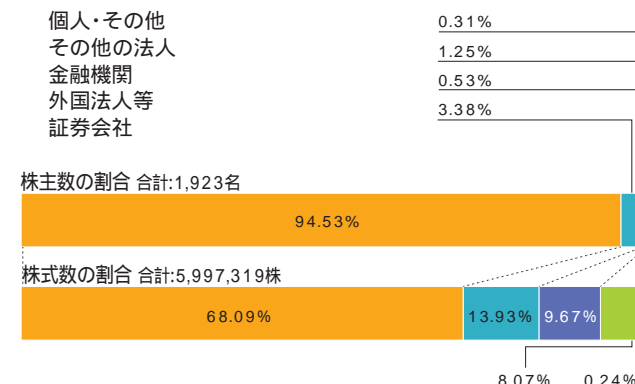
株式の状況

会社が発行する株式の総数	16,000,000株
発行済株式総数	5,997,319株
資本金	2,330,650千円
株主数	1,923名

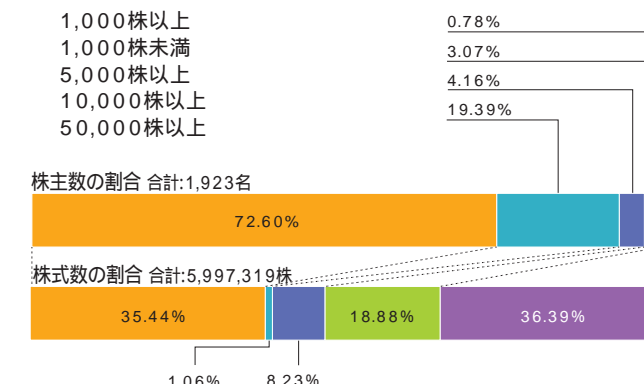
大株主

株主名	持株数		当社の当該大株主への出資状況	
	(千株)	(%)	(千株)	(%)
川畑種恭	373	6.22	-	-
アジアパシフィックシステム 総研株式会社	300	5.00	-	-
株式会社みずほ銀行	283	4.74	-	-
富士通株式会社	189	3.16	106	0.00
大谷武彦	180	3.01	-	-
ザバンクオブニューヨーク ジャスディットリーティアアカウント	141	2.35	-	-
クレオ従業員持株会	131	2.20	-	-
オーエム10エスエスピー クライアントオムニバス	102	1.70	-	-
安田生命保険相互会社	100	1.67	-	-
山内秀夫	80	1.33	-	-

所有者別分布状況



所有数別分布状況



株価・出来高の推移

